

シネンシス系ハイブリッドスターチスの開花特性

福島県農業試験場会津地域研究支場
平成16～17年度試験成績概要

- 1 部門名 花き—スターチス—品種
分類コード 05—15—04000000
- 2 担当者 江川孝二・室谷朝子・菅野清・佐藤正武
- 3 要 旨

ハイブリッドスターチス類はシネンシス系品種等の新品種の導入が試みられているが、生理生態的に不明な点が多く安定生産に至っていない。そこで越冬率が高いとされる‘キノブラン’、‘キノジョーン’、‘キノセリーズ’の開花特性について会津山間地と会津平地地で比較検討した。

- (1) 定植1年目のシネンシス系品種は、山間地域において4月下旬定植で7月上旬から8月下旬に1株当たり約10本を集中的に収穫できる。また定植2年生株は、6月上旬から9月中旬下旬にかけて1株当たり10～20本の収穫が期待できる。しかし‘キノセリーズ’は、越冬株率が80%であり収量を大きく減少させた。
- (2) 会津平地地域でのシネンシス系品種は、4月下旬定植でも6月上中旬から8月下旬にかけて1株当たり10～30本程度の収穫が期待できる。また2年生株は、6月上旬から9月中旬下旬にかけて1株当たり40～60本の出荷が期待できる。しかし、その品質は後半になるほどボリュームが低下しS級品が約80%を占める。
- (3) 以上のことから、シネンシス系スターチスはリモニウム系品種と比べて株当たり収量が多い。しかし後半になるほどボリュームは低下する。なお越冬株率が低下する品種もあるため、品種の選定に留意する必要がある。

- 4 その他の資料など
なし